

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成15年度病虫害発生予報第5号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成15年度病虫害発生予報第5号（8月）

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
普通期水稻	葉いもち 穂いもち 紋枯病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	並 並 やや少ない 並 並 やや多い 並	並 並 やや少ない 並 並 やや多い 並
大豆	ハスモンヨトウ	やや多い	並

斑点米カメムシ類は前年対比。

【普通作物 - 普通期水稻】

1 葉いもち・穂いもち

(1) 予報の内容

発生量：平成・前年並

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、発病株率は8.2%（平成：8.3%、前年：14.3%）、発生ほ場率は22.4%（平成：30.5%、前年：25.0%）であった。

イ 気象予報では8月の平均気温、降水量及び日照時間は平成並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉いもちの発生が多いほ場では、早急に防除を行う。

イ 穂いもちの防除を実施する場合は、薬剤の剤型によって防除適期が異なり、粉剤は出穂期直前、粒剤は出穂前処理で種類によって使用時期が異なるので注意する。

ウ 防除薬剤については「平成15年度普通作物病虫害防除基準」を参照する（以下の病虫害についても同様）。

## 2 紋枯病

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

### (2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、発病株率は0.5%（平年：1.6%、前年：1.2%）、発生ほ場率は3.5%（平年：19.3%、前年：10.9%）であった。

イ 気象予報では8月の平均気温、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 出穂以降は紋枯病に対する感受性が高まり、気温の上昇に伴い病斑が上位葉へと進展する。

イ 防除を実施する場合は、薬剤の剤型によって防除適期が異なる。粉剤は出穂期直前、粒剤は出穂前処理で種類によって使用時期が異なるので注意する。

## 3 セジロウンカ

### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

### (2) 予報の根拠

ア 7月5半旬までの飛来量は平年並であった。ネットトラップ、各地の予察灯で6月12～14日、22～28日、7月1～9日、11～13日、16～17日に飛来を確認した。

イ 7月5半旬調査の結果、10株当たり成幼虫数は34.6頭（平年：27.5頭、前年：8.1頭）、発生ほ場率は93.1%（平年：64.6%、前年：76.2%）であった。

ウ 気象予報では8月の平均気温は平年並と予想されている。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 防除を実施する場合は、地域によって飛来量に差があるため、別紙「平成15年度飛来に基づくセジロウンカ発生予想パターン図」を参照し、防除時期を決定してください。飛来量は飛来波が一番多い。

イ 今後の詳しい発生活消長は病害虫防除所の発生予察情報、ホームページを参照する。

## 5 トビイロウンカ

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

### (2) 予報の根拠

ア 7月5半旬までの飛来量は平年より少なかった。

イ 7月5半旬調査の結果、10株当たり成幼虫数は0.1頭（平年：0.3頭、前年：0.1頭）、発生ほ場率は8.6%（平年：16.0%、前年：7.9%）であった。

ウ 気象予報では8月の平均気温は平年並と予想されている。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 要防除水準（8月上旬：20頭/100株、8月下旬：100頭/100株）を超える場合は、早急に防除を行う。

イ 防除を実施する場合は、地域によって飛来量に差があるため、別紙「平成15年度飛来に基づくトビイロウンカ発生予想パターン図」を参照し、防除時期を決定してください。

ウ 今後の詳しい発生活消長は病害虫防除所の発生予察情報、ホームページ

を参照する。

## 6 コブノメイガ

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

### (2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、食害株率は19.3%（平年：6.5%、前年：4.0%）、発生ほ場率は78.6%（平年：57.5%、前年：50.8%）であった。

イ 気象予報では8月の平均気温は平年並と予想されている。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 防除を実施する場合は、地域によって飛来量に差があるため、別紙「平成15年度飛来に基づくコブノメイガ発生予想パターン図」を参照し、防除時期を決定してください。

イ 薬剤散布は防除効果が高い、発蛾最盛期から1週間後の若齢幼虫期に実施する。

ウ 今後の詳しい発生消長は病害虫防除所の発生予察情報、ホームページを参照する。

## 7 斑点米カメムシ類

### (1) 予想の内容

発生量：前年並

### (2) 予報の根拠

ア 7月5半旬の片振り20回すくい取り調査の結果、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類は畦畔で0.3頭、（前年：0.6頭）、雑草地で4.4頭（前年：2.4頭）であった。

カスミカメ類は畦畔で11.2頭、（前年：12.4頭）、雑草地で28.9頭（前年：20.5頭）であった。

イ 気象予報では8月の平均気温、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 出穂期以降の畦畔や休耕田の除草は、カメムシ類の本田への飛び込みを助長するので、出穂以前に早めの除草を行う。

イ 防除適期は穂揃期とその7～10日後である。

ウ 水田周辺にイネ科雑草があるほ場や毎年斑点米の発生が多い地域では、2回防除を行うと効果が高い。

エ 薬剤防除を行う場合は、水田周辺の畦畔など、カメムシ類の発生源も含めた防除を行うとより効果が高い。

## 【普通作物 - 大豆】

### 1 ハスモンヨトウ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少ない

#### (2) 予報の根拠

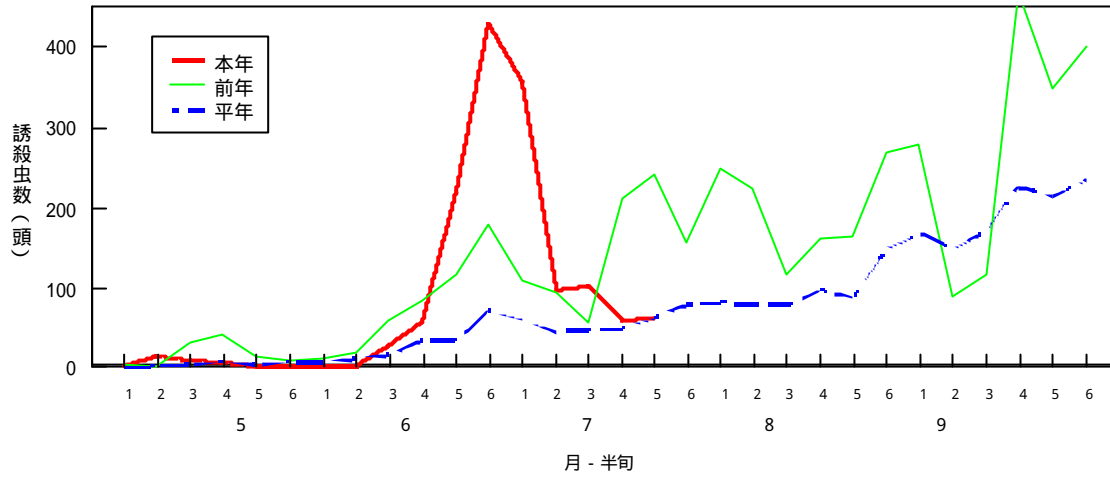
ア 筑紫野市のフェロモントラップによる誘殺虫数は7月1半旬～5半旬で676頭（平年：268頭、前年：714頭）であった。

イ 降雨により大豆の播種が遅れている。

ウ 気象予報では8月の平均気温、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

#### (3) 防除上注意すべき事項

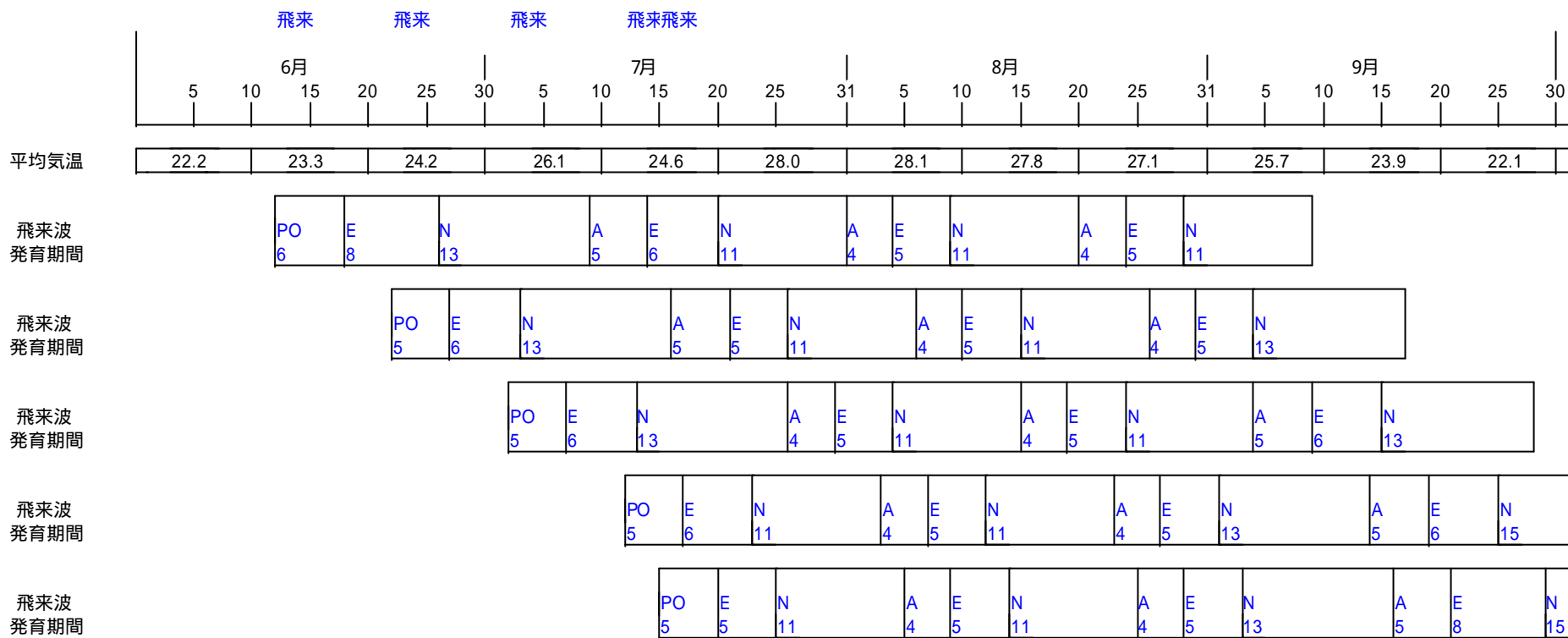
- ア 分散前の若齢幼虫が群棲している白変葉は直ちに除去する。
- イ 薬剤防除は効果が高い若齢幼虫期に実施する。
- ウ フェロモントラップによる誘殺虫数を利用し、防除時期を決定する場合は、誘殺ピークから10日目頃除を開始する。
- エ 今後のフェロモントラップによる誘殺状況は病害虫防除所の発生予察情報、ホームページを参照する。



ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移（筑紫野市）

別紙

### 平成 15年度 飛来に基づくセジロウンカ発生予想パターン図

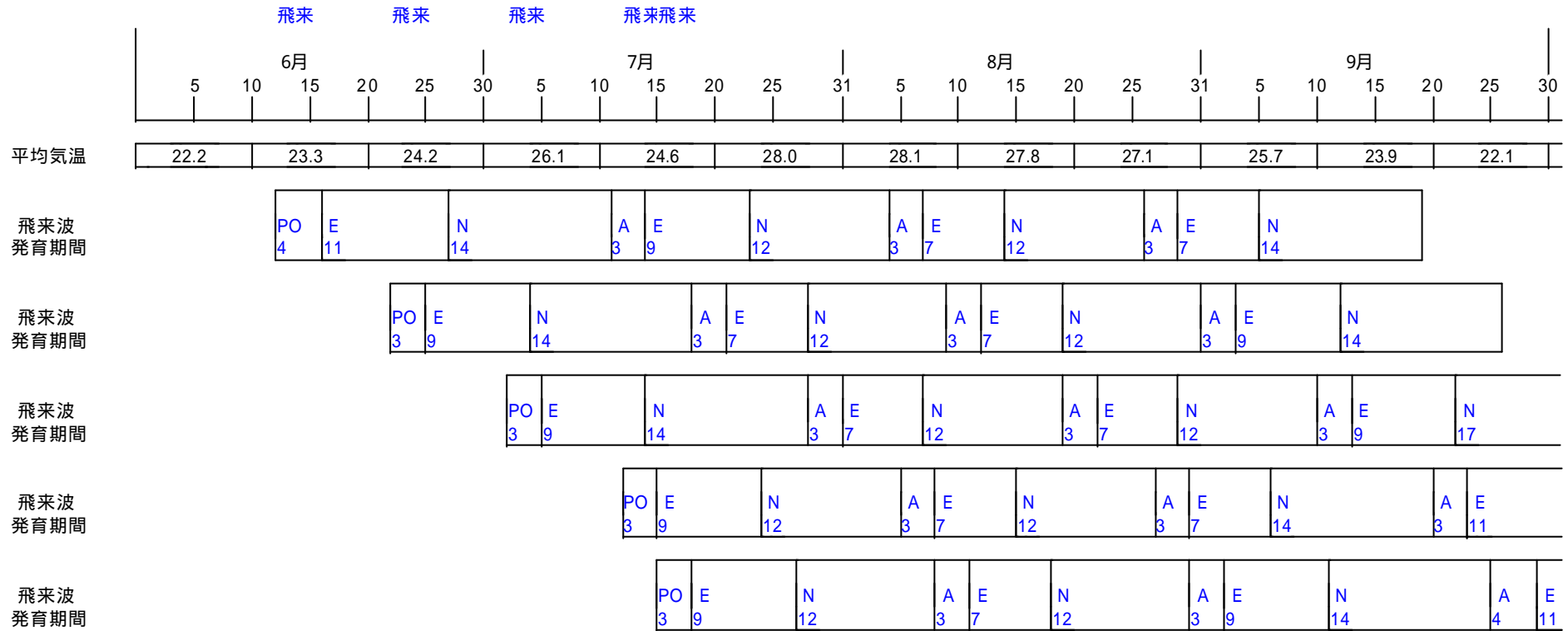


PO :産卵前期間      E :卵      N :幼虫 (不完全変態)      A :成虫

平均気温は、福岡管区気象台福岡県農業気象速報の福岡観測所の数値。  
 平均気温は7月中旬まで本年の数値で、7月下旬以降は平年の数値。

別紙

### 平成 15年度 飛来に基づくトビロウカ発生予想パターン図

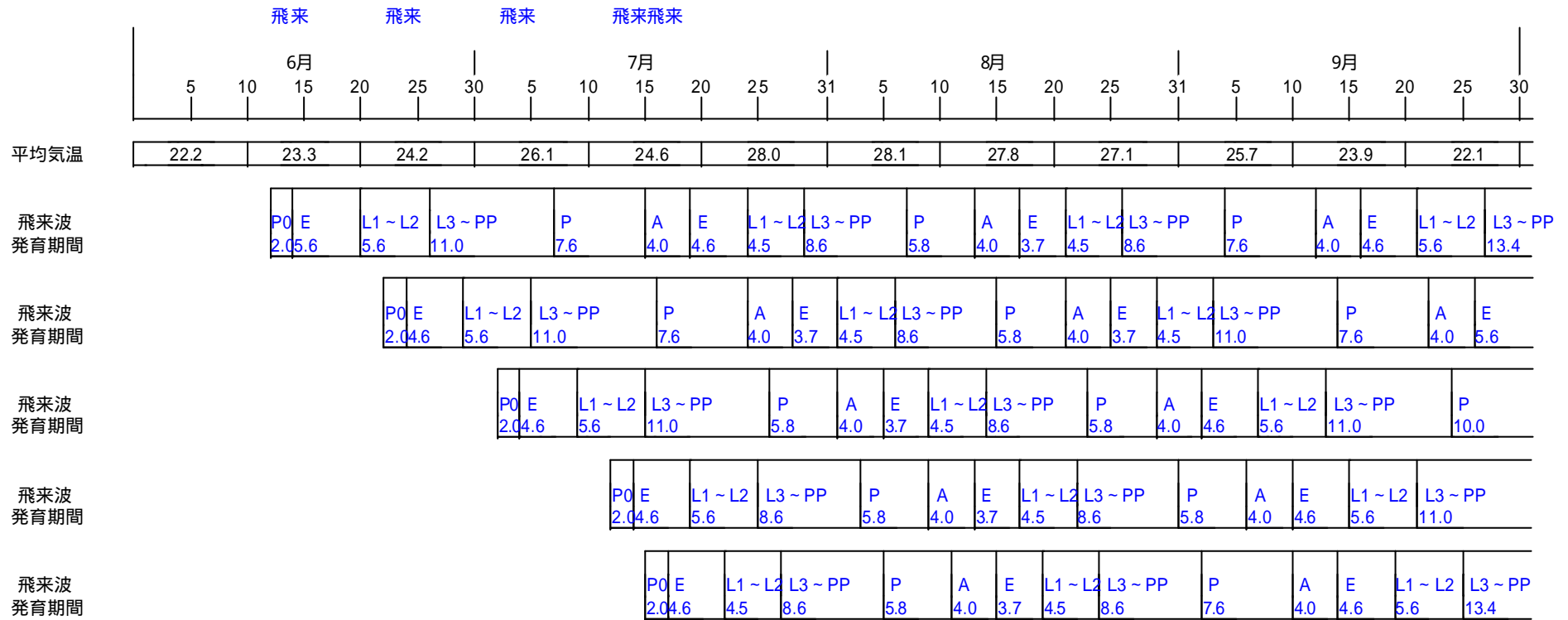


PO :産卵前期間      E :卵      N :幼虫 (不完全変態)      A :成虫

平均気温は、福岡管区気象台福岡県農業気象速報の福岡観測所の数値。  
 平均気温は 7月中旬まで本年の数値で、7月下旬以降は平年の数値。

別紙

### 平成 15年度 飛来に基づくコブノメイガ発生予想パターン図



PO :産卵前期間    E :卵    L :幼虫 (完全変態)    PP :前蛹    P :蛹    A :成虫

平均気温は、福岡管区気象台福岡県農業気象速報の福岡観測所の数値。  
平均気温は 7月中旬まで本年の数値で、7月下旬以降は平年の数値。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 ( 平年比 )	発生予想 ( 平年比 )
カンキツ	黒点病 ミカンハダニ	並 やや少ない	並 並
ナシ	ナシヒメシンクイ ハダニ類	並 少ない	並 やや少ない
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ ハマキムシ類	やや少ない 並 やや多い 並	並 並 やや多い 並
ナシ、カキ カンキツ類等	カメムシ類	少ない	少ない

【果 樹】

1 カンキツの黒点病

( 1 ) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

( 2 ) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、発病果率は1.8% ( 平年 : 1.6%、前年 : 1.1% )、発生ほ場率は40.0% ( 平年 : 27.0%、前年 : 25.0% )であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 降雨が続くと多発するので、積算降水量250mmを目安に薬剤散布を行う。

2 カンキツのミカンハダニ

( 1 ) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

( 2 ) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、寄生葉率は5.2% ( 平年 : 12.2%、前年 : 24.0% )、発生ほ場率は45.0% ( 平年 : 51.5%、前年 : 65.0% )であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤が、葉裏にも十分かかるように丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布をひかえ、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

3 ナシのナシヒメシンクイ

( 1 ) 予報の内容

発生時期 : 平年・前年並

発生量 : 平年・前年並



( 2 ) 予報の根拠

ア フェロモントラップによる第2世代成虫の発蛾最盛期は、平坦地域で7月2半旬、山間地域で7月5～6半旬頃で平年並であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 第3世代成虫の発蛾最盛期は平坦地域で8月2半旬、山間地域で8月5～6半旬頃と予想される。

イ 発蛾最盛期7日後を目安に防除を行う。なお、防除後も成虫が減少しない場合は、更に7～10日間隔で追加防除を行う。

ウ 幼虫は主に果頂部から果実に食入加害するので、防除に当たっては、果実に薬液が十分かかるように散布する。

エ 交信攪乱剤を使用する場合は、傾斜地ほ場や小面積では効果が低下するので注意する。

4 ナシのハダニ類

( 1 ) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや少ない

( 2 ) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、寄生葉率は1.0% (平年: 11.9%、前年: 11.2%)、発生ほ場率は25.0% (平年: 47.3%、前年: 62.5%)であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 防除にあたっては、薬液が葉裏にも十分かかるように丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布をひかえ、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

5 カキの炭疽病

( 1 ) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

( 2 ) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、発病枝率は0.9% (平年: 3.0%、前年: 0.9%)、発生ほ場率は25.0% (平年: 36.6%、前年: 25.0%)、発病果率は0.5% (平年: 1.0%、前年: 0.6%)、発生ほ場率は31.3% (平年: 33.0%、前年: 25.0%)であった。

イ 調査ほ場外で発生の多いほ場が散見される。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 樹冠内部の徒長枝に感染し発病しやすいので、防除にあたっては薬液が樹冠内部にも十分かかるように丁寧に散布する。

イ 罹病枝及び罹病果は、感染源になるので極力除去する。

6 カキのうどんこ病

( 1 ) 予報の内容

発生量 : 平年並で、前年よりやや多い

( 2 ) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、発病葉率は12.6% (平年: 10.5%、前年: 4.7%)、発生ほ場率は75.0% (平年: 73.6%、前年:

：68.8%）であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

葉裏にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

7 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、寄生果率は10.9%（平年：6.0%、前年：14.9%）、発生ほ場率は68.8%（平年：48.4%、前年：87.5%）であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生の多いほ場では、第2世代幼虫の発生時期である8月中旬の防除を徹底する。

イ 本虫は、ヘタの下や葉と重なった果実の表面など薬剤がかかり難いか所に多く寄生しているため、十分な薬量を使って散布むらのないよう防除する。

8 ナシ、カキ、カンキツ等のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

発生時期：後期発生型で9月～10月

(2) 予報の根拠

ア 4月1半旬～7月5半旬までの予察灯での総誘殺虫数は次のとおりである。（調査地点：筑紫野市吉木）

チャバネアオカメムシ 24頭（平年：3,292頭、前年：16,284頭）

ツヤアオカメムシ 50頭（平年：2,027頭、前年：15,298頭）

イ 4月1半旬～7月5半旬までの集合フェロモントラップでの総誘殺虫数は次のとおりである。（調査地点：筑紫野市吉木）

チャバネアオカメムシ 349頭（前6か年平均：24,345頭、前年：131,013頭）

ツヤアオカメムシ 46頭（前6か年平均：1,768頭、前年：7,957頭）

ウ 7月下旬のヒノキ球果のピーティング調査では、チャバネアオカメムシの寄生頭数は、1地点当たり1.3頭（平年9.3頭）と少なかった。

エ 県内15カ所の7月下旬のヒノキ球果における1果当たり口針鞘数は、平均で0.3本、被害球果率も17.4%と少なく、カメムシがヒノキから離脱する時期は、9月下旬以降と予想される。

オ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 大半のほ場では、現在防除は必要ないが、毎年発生が多いほ場では、今後の発生状況に十分注意する。

イ 品目によって使用できる薬剤が異なるので、防除薬剤については「平成15年度果樹病害虫防除基準」を参照する。

ウ 合成ピレスロイド系薬剤を多用するとカイガラムシ類やハダニ類が多発する恐れがあるので注意する。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 ( 平年比 )	発生予想 ( 平年比 )
茶	炭疽病	やや少ない	やや少ない
	もち病	並	並
	輪斑病	やや少ない	やや少ない
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	カンザワハダニ	やや少ない	やや少ない
	チャノホソガ	やや多い	やや多い
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	並	並

平年値（過去10年間の平均）がない場合は、前年までの平均値を用いた。

【茶】

1 炭疽病

( 1 ) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少なく、前年並

( 2 ) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、1㎡当たり病葉数は平均0.6葉（平年：4.7葉、前年：0.4葉）であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 整枝後の残葉での発生に注意し、萌芽から1～2葉期までに薬剤防除を実施する。

イ 防除薬剤は「平成15年度茶・いぐさ病虫害防除基準」を参照。

ウ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布をひかえ、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。（この項は以下の病虫害についても同様）。

2 輪斑病

( 1 ) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや少ない

( 2 ) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、1㎡当たり病葉数は平均0.1葉（平年：0.4葉、前年：0.9葉）であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 葉や茎の傷口から病原菌が感染するため、三番茶摘採または刈り落としの当日あるいは翌日に薬剤防除を実施する。

イ 輪斑病の発生園では、新梢枯死症も発生しやすいので注意する。

3 チャノコカクモンハマキ

( 1 ) 予報の内容

発生時期 : 平年・前年並

発生量 : 平年並、前年よりやや多い

( 2 ) 予報の根拠

ア フェロモントラップによる7月5半旬までの累計誘殺数は、筑後市で

791頭（前9か年平均：1,106頭、前年：835頭）、八女市で568頭（前3か年平均：404頭、前年：375頭）であった。  
イ 7月5半旬の調査では、1㎡当り巻葉数は平均0.2葉（平年：0.2葉、前年：0葉）であった。

ウ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 巻葉後の防除効果は劣るため、巻葉がみられたら直ちに防除を行う。

イ フェロモントラップによる調査では、第2世代成虫の発蛾最盛期は、7月6半旬～8月1半旬と予想されるので、ほ場内の成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

#### 4 チャノホソガ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年並、前年よりやや遅い

イ 発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、1㎡当り巻葉数は平均8.7葉（平年：0.7葉、前年：2.8葉）で、特に山間地域で発生が多かった。

イ 黒木町（農総試八女分場）のフェロモントラップによる7月5半旬までの累計誘殺数は、1,034頭（平年：1,421頭、前年：1,129頭）で、第3世代成虫の発蛾最盛期は平年並の7月3半旬であった。

ウ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第4世代成虫の発蛾最盛期は、黒木町で8月3半旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

イ 発蛾最盛期と開葉期が一致する園は、特に発生が多くなるので注意し、巻葉が見え始めたら直ちに防除を行う。

#### 5 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬のたたき落とし法による調査の結果、平均3.6頭（平年：4.0頭、前年：7.3頭）の発生であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

萌芽期から新葉展開期の防除が重要で、たたき落とし法（A4版白紙上）で10頭以上発生している場合は防除を行う。

【野 菜】

作物名	病虫害名	発生現況 ( 平年比 )	発生予想 ( 平年比 )
イチゴ ( 育苗床 )	うどんこ病 炭疽病 アブラムシ ハダニ類	並 やや多 少ない 少ない	並 やや多 少ない 少ない
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	少ない 並 並 やや多い やや多い	少ない 並 並 やや多い やや多い
ネギ	ネギハモグリバエ シロイチモジヨトウ	多い 並	多い 並
野菜共通	ハスモンヨトウ	並	やや多い

1 イチゴのうどんこ病

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

( 2 ) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、子株での発病株率は4.7%（平年：4.5%、前年：0.9%）であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 育苗期の防除を徹底し、本ぼへの持込み防止に努める。

イ 上位葉への感染を防ぐとともに、防除の効果を高めるため可能な限り下葉を除去する。

ウ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布をひかえ、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

2 イチゴの炭疽病

( *Colletotrichum acutatum* 菌による葉枯れ炭疽及び *Glomerella cingulata* 菌による炭疽病 )

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

( 2 ) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、子株での発病株率は3.5%（平年：0.4%、前年：0.9%）であった。一部のほ場では多発している。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の薬剤散布は効果が低いため、予防散布に努める。特に、降雨後は感染しやすいので、重点的に散布する。

イ 薬剤散布は株元まで十分かかるように行い、葉かき直後に実施する。

ウ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布をひかえ、

異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

エ 罹病株があると降雨やかん水により急速に蔓延するので、発病を確認した株は速やかに処分する。

オ 輪斑病や疫病など類似の病徴を示すものがあるので、判断がつかない場合は地域農業改良普及センターや病害虫防除所へ診断を依頼し、病害を特定する。

### 3 アスパラガスの斑点病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年より少なく、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、発病株率は3.9%（平年：23.1%、前年：3.3%）であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 過繁茂になると多発するので、整枝を的確に行いほ場内の通風をよくする。

イ 発病部位はできる限り取り除き、薬剤による防除を徹底する。

### 4 アスパラガスのアザミウマ類

#### (1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

#### (2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、寄生株率は42.6%（平年：36.9%、前年：33.3%）であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

### 5 アスパラガスのヨトウ・タバコガ類

#### (1) 予報の内容

発生量：平年、前年より多い

#### (2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、若茎の寄生株率は2.2%（平年：0%、前年：0%）であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

イ 成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

ウ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布をひかえ、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

### 6 ネギのネギハモグリバエ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年より多く、前年よりやや多い

#### (2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、被害株率は25.5%（平年：4.7%、前年：20.0%）であった。一部のほ場では多発している。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 幼苗期の防除を徹底する。

イ 収穫終了後にハウス内土壌の表面を1週間程度ビニルで覆い、土壌中の蛹の死滅させる。

## 7 ネギのシロイチモジヨトウ

### (1) 予報の内容

発生量：平年、前年並

### (2) 予報の根拠

ア 朝倉町長淵のフェロモントラップによる誘殺虫数は、6月5半旬～7月2半旬で134頭（平年：131.4頭、前年：240頭）、7月2半旬～7月5半旬で144頭（平年：120.5頭、前年：114頭）であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

### (3) 防除上注意すべき事項

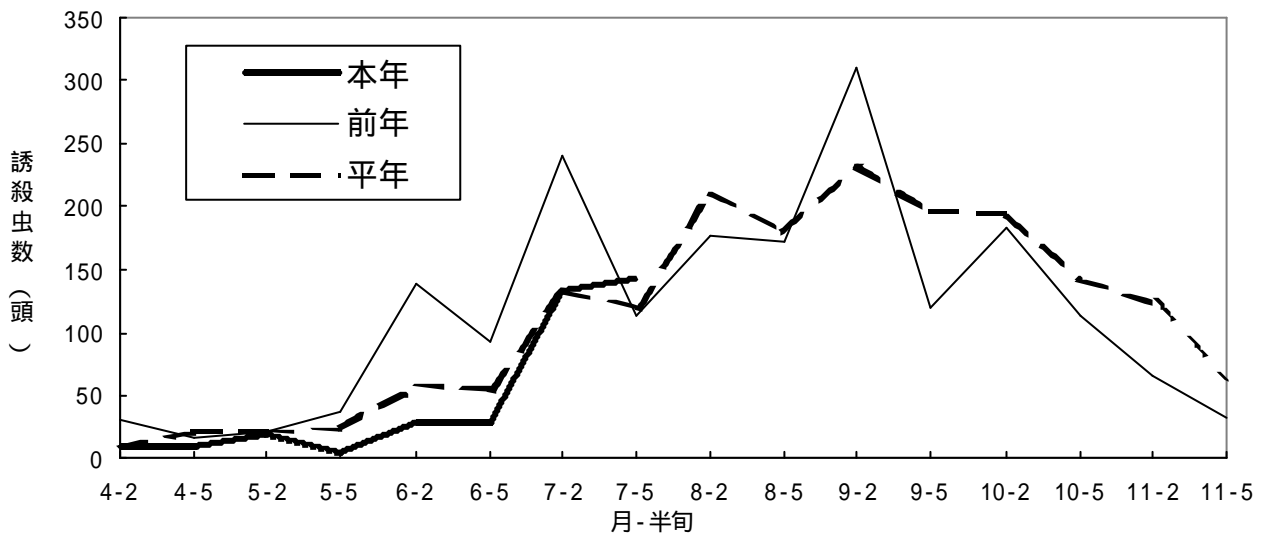
ア 誘殺虫数は平年並であるが、今後の発生動向に注意する。

イ 中齢以降の幼虫に対しては薬剤効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

ウ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

エ 葉身に産みつけられた卵塊から孵化した幼虫はそのまま葉身内に食入し、内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去する。

オ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布をひかえ、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺虫数の推移 (朝倉町長淵)

## 8 野菜共通のハスモンヨトウ

### (1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

### (2) 予報の根拠

ア 筑紫野市のフェロモントラップによる誘殺虫数は7月1半旬～5半旬で676頭（平年：268頭、前年：714頭）であった。

イ 7月5半旬の野菜類調査では本虫の寄生は認められないが、大豆の播種が遅れており、今後、野菜・花き類で被害が発生する恐れがある。

ウ 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 孵化直後の若齢幼虫は集団となって葉を食害し、その後周囲に分散するので、初期の食害発生に注意し、卵塊や幼虫は見つけしだい捕殺する。ハウスでは、支柱やベンチの裏等に卵を産み付けることがあるので注意する。

イ 老齢幼虫に対しては薬剤効果が低いので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を徹底する。

ウ ナス、トマト等の果菜類では、葉以外にも花蕾や果実を食害する場合がありますので注意する。

エ ほ場周辺の雑草は増殖源になるので、除草を徹底する。

オ 防除薬剤については、平成15年度野菜及び花き花木の各病虫害防除基準を参照のこと。

カ 今後のフェロモントラップによる誘殺状況は、病虫害防除所の発生予察情報、ホームページを参照する。



## 8月の気象予報（1か月）

（予報期間7月26日～8月25日）

2003年7月25日

福岡管区气象台発表

### 【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は平年と同様に晴れる日が多いですが、曇りや雷雨となる時期があるでしょう。

### 【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	50	30
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

- < 1週目の予報 > 7月26日～8月1日  
この期間の平均気温は、低い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 8月2日～8月8日  
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 8月9日～8月22日  
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

### 参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
27.8	180.5	204.4	28.1	28.0	27.7

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス  
電子メールアドレス

<http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka>  
[kfok0301@sp.jpnp.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jpnp.ne.jp)